



営農NEWS



露地ナス栽培で各種病害の発生に注意しましょう

本県のナス栽培は、一部に施設を利用した周年栽培もありますが、主体は露地栽培です。

生育が順調に進み、枝葉が込み合ってきた時期に、天候の不安定（曇雨天や日照不足、強風など）な日が続きますと、各種の病害（うどんこ病、褐色腐敗病、褐紋病、すすかび病、黒枯病、菌核病、灰色かび病など）が発生してきます。

特に、果実に病斑が発生する褐色腐敗病、褐紋病、黒枯病、菌核病、灰色かび病などは、多発生すると大きな減収となりますし、他の病害も茎葉等に発生すると生育に影響し、品質の低下や収穫期間の短縮等を招き、減収します。このため、圃場を丁寧によく観察し、早期発見に努めるとともに、発生初期からの防除を徹底してください。

<各種病害の症状>

- 1 **うどんこ病**は、主に葉に発生し、表面に白色粉状のかびを生じます。症状が進むと黄褐色に変色し、多発生すると葉柄、茎等の全身に発生します。
- 2 **すすかび病**は、葉のみに発生します。はじめ葉裏にカビのある小斑点があらわれ、次第に色が濃くなって、灰褐色の病斑となります。
- 3 **褐色腐敗病**は、主に果実で発病しますが、茎の地際部や葉、枝などでも発生します。果実では、はじめ淡褐色～褐色のくぼんだ病斑を形成し、多湿が続くと灰色粉状のカビを生じ、やがて軟化腐敗します。収穫後の市場で、発病した例もあります。茎の地際部が侵されると、病部がくびれて軟化腐敗し、倒伏や立枯れとなる場合があります。
- 4 **褐紋病**は、葉、茎、果実などあらゆる部分に発生しますが、果実に発生すると褐色点状の病斑が次第に輪紋を描きながら拡大し、のちに病斑部に褐色の小粒点を多数生じます。葉ではやや明るい褐色の病斑を生じ、輪紋をもつ大型病斑に拡大して、しばしば中央部に穴があき、病斑の周囲が黄化します。登録農薬は、ありません。
- 5 **黒枯病**は、主に葉に発生し、激発すると果実にも病斑を生じます。葉では、はじめ紫褐色で不正形の小さな斑点を生じ、一部は拡大して大型病斑にもなりますが、多くはそのまま経過します。果実では、水浸状の小隆起を多数生じます。
- 6 **菌核病**は、主に茎に発生しますが、果実でも発病します。茎では、水浸状の病斑を生じ、その上の茎葉がしおれます。果実では、茶褐色の水浸状病斑を生じ、腐敗します。いずれも、病斑上には白色綿毛状のカビを生じ、のちにネズミの糞状の菌核を形成します。
- 7 **灰色かび病**は、幼果の花弁から発病することが多く、主に果実で発生します。なお、葉や茎にも褐色の病斑を生じますが、これは発病した花弁が付着して発病することが多いです。

表1 ナス定植後の生育期における各種病害の主な防除薬剤 (令和元年6月20日現在)

薬剤名	うどんこ病	すすかび病	褐色腐敗病	黒枯病	菌核病	灰色かび病	分類
ダコニール1000 ※	○	○		○		○	M5
ベルコートフロアブル	○	○		○		○	M7
アフェットフロアブル	○	○			○	○	7
シグナムWDG ※※	○	○			○	○	7と11
フルピカフロアブル	○					○	9
ストロビーフロアブル	○	○					11
トリフミン水和剤	○	○					3
モレスタン水和剤	○						M10
フォリオゴールド ※	○	○	○				4とM5
プロポーズ顆粒水和剤 ※		○	○				40とM5
レーバスフロアブル			○				40
ランマンフロアブル			○				21
ロブラール水和剤		○		○	○	○	2
カンタスドライフロアブル ※※		○			○	○	7
ゲッター水和剤 ※※※				○	○	○	1と10
トップジンM水和剤 ※※※				○	○	○	1
ファンタジスタ顆粒水和剤				○	○	○	11
スミレックス水和剤					○	○	2
ピクシオDF					○	○	17

注1) 表中 ※印の薬剤には、いずれも有効成分TPNを、※※印には有効成分ボスカリドを、※※※印には有効成分チオファネートメチルを含みます。有効成分の総使用回数に、十分注意してください。

注2) 分類欄には、FRACコードを記載しました(コードが2つは混合剤)。同一分類(コード)は作用点が同じなので、連用は避けてください。

農薬使用の際は、必ずラベル及び登録変更に関するチラシ等の記載内容を確認し、飛散に注意して使用して下さい。

※JA全農いばらきホームページでもご覧になれます。



生産資材部 営農企画課

電話：029-291-1012 FAX：029-291-1040